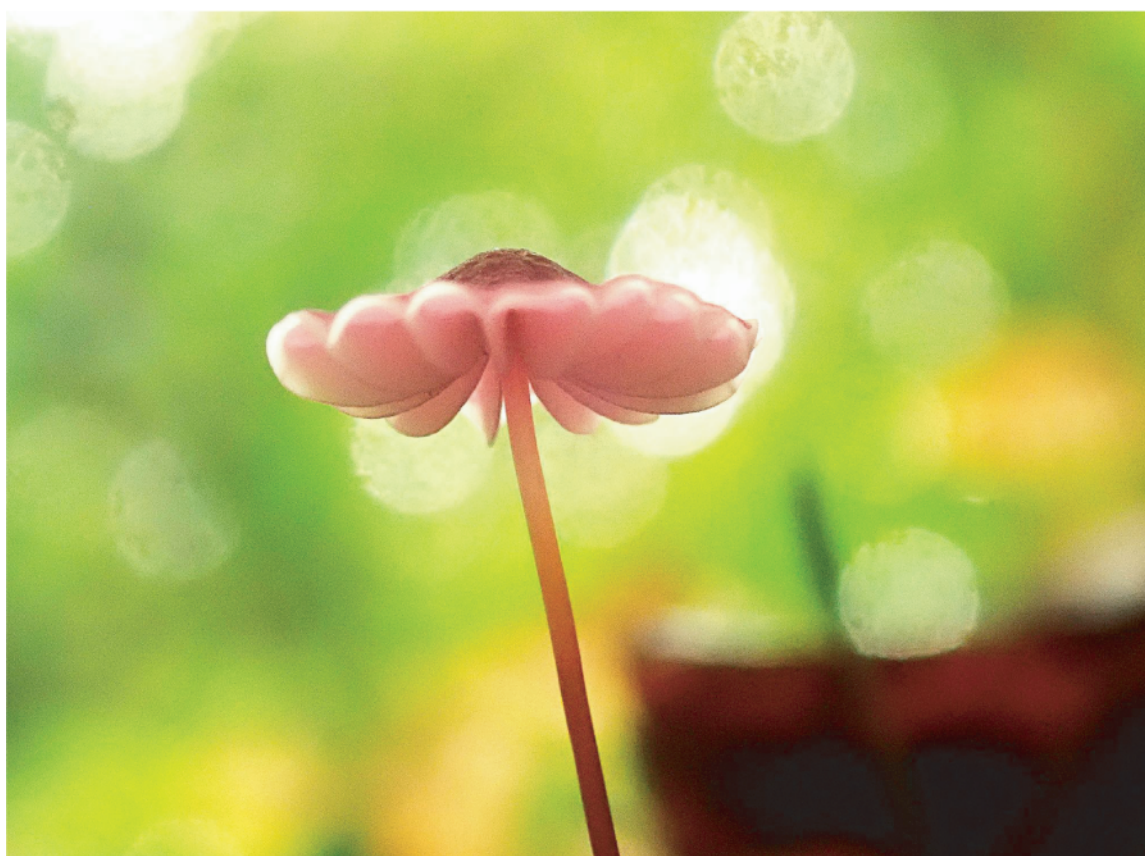


仙台市太白山自然観察の森 情報誌2025年10月号

森のおくりもの10

NO.409 The Gift from Woods

ハナオチバタケ（ホウライタケ科）



フリフリしている姿がキュートなピンクのキノコです。「花落葉茸」は落ち葉を分解させるような花の様なキノコから付いた名前で、落ち葉上に群生している様子を観察できます。森の生態系を維持するための重要な役割を担っているキノコたち、この時期に多くの種類を目にすることができるのです。紅葉を楽しむ前に多様なキノコたちはいかがでしょう。【館長：佐藤由美】

森のことは

自然の様子やできごとを四字熟語やことわざなどに当てはめ、森で感じた言葉をお届けします

『切磋琢磨（せっさたくま）』

暑かったのが嘘のように朝晩は肌寒くなり、秋めいてきました。秋といえば実りの秋ですが、今年のどんぐりの実りに異変を感じました。例年、8月の下旬頃から9月にかけて、ハイイロチョッキリというオトシブミ科の昆虫がどんぐりに卵を産み付け、どんぐりと葉が付いている小枝を切り落としたものが見られるのですが、今年はクヌギで少しあったくらいで、ほとんど見られませんでした。コナラは、熟す前の緑色のどんぐりがわずかに見られる程度でした。

森でコナラシギゾウムシというゾウムシ科の昆虫と出会いました。9月は、コナラシギゾウムシもどんぐりに産卵する時期なのですが、あまりのどんぐりの少なさに困惑して、ウロウロしていたのかもしれませんが。ハイイロチョッキリと姿がそっくりですが、枝は切り落とさないという習性の違いがあります。

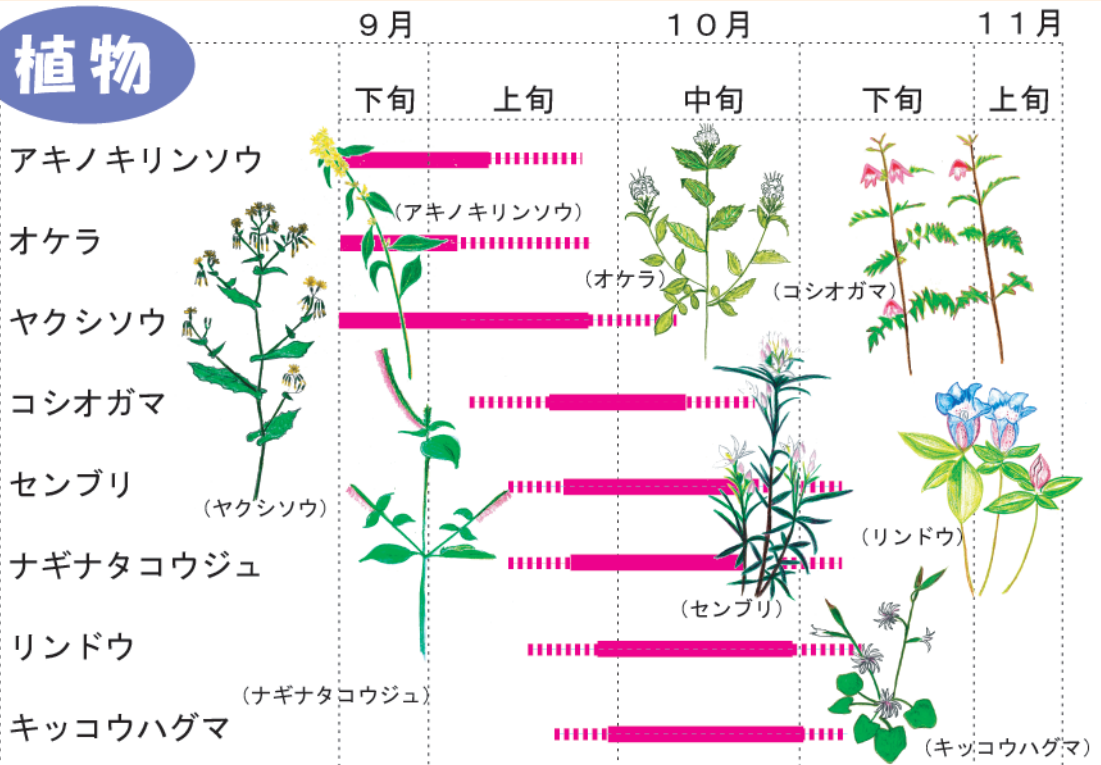
これらの昆虫は、どんぐり虫などと呼ばれてお馴染みです。どんぐりは虫に食べられてしまうと芽を出すことができなくて、子孫を増やせません。そこで、不作の年と豊作の年をつくり、不作の年に昆虫たちの数を減らしておけば、豊作の年には食べきれないようになり、無事にたくさん芽が出せると考えたのでしょう。昆虫たちもこれに応じたのか、幼虫から成虫になるのを翌年だけではなく、休眠して翌々年や3年後に羽化するようにする生態があります。不作の年が避けられる工夫なののでしょうか。そう考えると、植物と動物たちが生き残るために知恵を出して競い合い、互いに進化したように感じました。

「切磋琢磨」という言葉があります。「仲間と互いに励まし合い、競い合いながら向上する」という意味です。植物には脳がないし、連絡手段もないのにどうやって豊作や不作のタイミングを合わせるのだろう、昆虫が状況を把握して、生態を変化させるなんて驚きです。自然のしくみは、不思議で満ち溢れています。今年のどんぐりの凶作が“作戦”なのか、気候変動の影響なのか。人間のせいで戦術が狂っていただければいいのですが…。 【レンジャー：新田隆一】



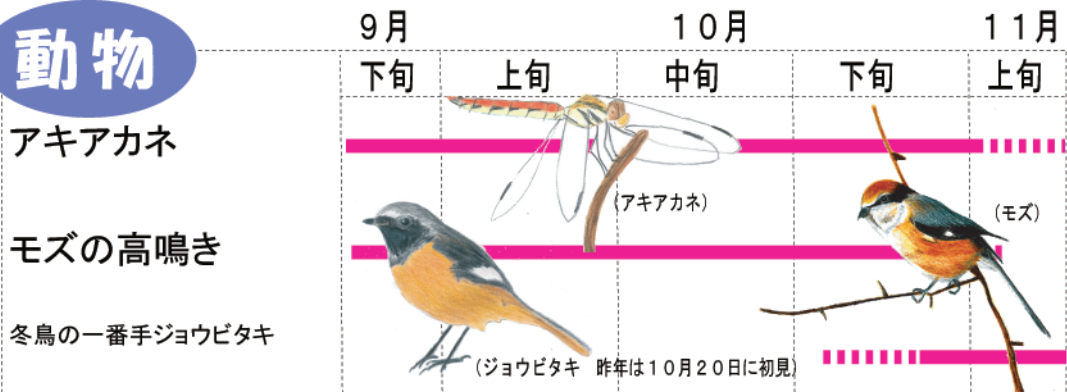
10月の生物ごよみ

植物



9月に入ってから厳しい残暑が続く、2日には仙台市で37.4度と1926年の観測開始以来、9月の史上最高気温を更新する暑さになりました。例年ですとお盆を過ぎるころには涼しくなるのですが、エアコンなしでは過ごせないほどの暑さが続きました。これも温暖化の影響でしょうか。このまま毎年のように気温が上昇していくのでしょうか。10月に入ると冬鳥の一番手ジョウビタキがやってきます。昨年は10月20日に確認されています。暑かったあの夏も徐々にやわらぎ秋は一步一步近づいてきています。

動物

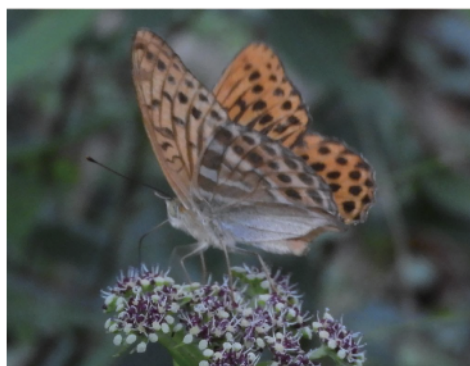


【レンジャー：齋 正宏】

森の「あれこれ」



「まるでカレーのような…」



森のあちこちに濃い紫と白の小さな花がちらほら。「ノダケ」というセリの仲間です。

一見地味な花ですがじっと見てみると小さなハエやアブ、カメムシやコウチュウの仲間が、それどころか大きなハチやチョウなどいろいろな昆虫が見られます。左の写真一枚目はキイロスズメバチ、二枚目のチョウはミドリヒョウモン、小さな花がじゅうたんのよう広がっていていろいろな昆虫が蜜や花粉を利用できるようです。そういえば葉にはキアゲハの幼虫がつかます（三枚目の写真）。私は観察の森でキアゲハの成虫をあまり見たことがなく羽化を楽しみにしていましたが残念なことにサナギになってまもなく何者かに食べられてしまったようでした。さまざまな生きものが関わっているノダケですが、人間も漢方薬としてその根を咳止めや熱さましにつかっています。

さて、私が一番気になるのは花が終わり実を結ぶ今頃です。一番下の写真はノダケの実です。うまく実が熟するのか乾燥するためかとにかくタイミングが良いととてもスパイシーな、まるでカレーのような香りがします（個人的な感想）。以前の観察会の時に市販のクミンシード（カレーに使うスパイスの一つ）と香りを比べてみても“どちらもおいしそう”との声でした。

【レンジャー：木田秀幸】

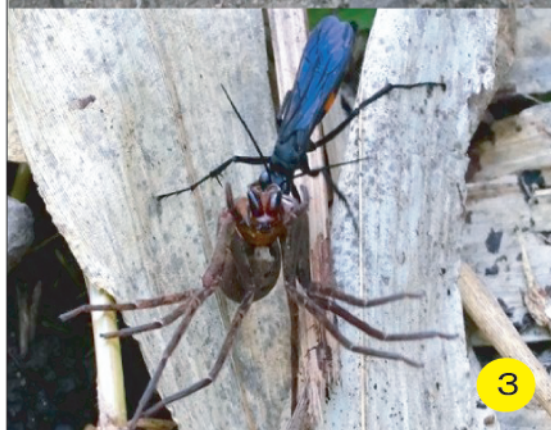
森は生きている



1



2



3

① セミの死骸に群がるムモンホソアシナガバチとシデムシの仲間、このように死骸などを分解や処理する虫たちがいることによって自然環境を浄化して、森の健全性を保っています。② イモムシの死骸を食べるキイロスズメバチ ③ ハチの仲間に捕まって運ばれるクモ ④ アナバチの仲間に捕まったキリギリスの仲間。⑤ 羽化しようと地上に出てきたセミの幼虫を襲うアリたち



4



5

涼しくなったり、暑くなったり気温の変化が激しい年でした、その傍らで森の中では生き物たちが、生きるために繰り広げる、生と死の様々な場面が見られました。これからは冬に向かい、森は静かに緑から鮮やかな紅葉へと色を変えていきます、日本の季節の美しさをじっくり感じたいと思います。

【レンジャー：菅井 潤】

イベント & お知らせ

◆「秋の森の葉っぱあそび」

- ・ 10月25日(土) 10:00 ~ 12:00 小学生以上 10名
- 【内 容】草花を使った自然遊びや葉っぱや木の実で創作など、秋の自然を楽しみます
- 【申込み】Eメールにて10月14日(火) 必着で(抽選)

◆「秋の鉤取山ネイチャーウォーキング」

- ・ 11月1日(土) 10:00 ~ 15:00 小学生以上 20名
- 【内 容】自然について講師の解説を聞きながら紅葉時期の鉤取山国有林を歩きます
- 【申込み】Eメールにて10月17日(金) 必着で(抽選)

◆「森のアート感さつ会「葉っぱで楽しむ自然のアート」」

- ・ 11月8日(土) 10:00 ~ 12:00 高校生以上 10名
- 【内 容】紅葉した葉を素材に自然遊びや創作活動でアートな自然の造形を楽しみます
- 【申込み】Eメールにて10月27日(木) 必着で(抽選)

◆「紅葉観察会」

- ・ 11月15日(土) 10:00 ~ 12:00 小学生以上 15名
- 【内 容】美しく色づいた紅葉を観察しながら散策路を歩き自然に親しみます
- 【申込み】Eメールにて11月10日(月) 必着で(抽選)

※申込み専用メールアドレス taihaku@sendai-park.or.jp 詳しくはQRコードを読み取り



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



毎週
日曜は

『ガイドウォーク』の日！

開催日: 5日, 12日, 19日, 26日

開催時間: 10:00~11:30

※時間までにセンター前へお集まりください

申し込み不要。飲み物、かつぱ、歩きやすい服装と靴で。

10月の休館日

6日、14日、20日

27日

※月曜日が祝祭日の場合、
翌日以降の平日が休館



宮城交通バスの場合

- ① 仙台駅 乗車時間 約40分
 - ② 長町駅東口 乗車時間 約30分
 - ③ 八木山動物公園駅 乗車時間 約10分
- 【行先】①②③ 「太白団地経由山田自由ヶ丘車庫行」乗車
(※③のみ乗車可「太白団地、山田自由ヶ丘経由山田自由ヶ丘南ニュータウン行」)
いずれも 公営アパート前 下車→徒歩15分



お車の場合

国道286号線の山田交差点から太白団地方面へ。
道々の案内板に従って約10分で駐車場へ。徒歩5分でセンター

観察の森へのアクセス



自然観察の森の最新情報、
「森のおくりもの」バックナンバーは
Webで！

2025年 10月号

発行: (公財) 仙台市公園緑地協会

編集: 仙台市太白山自然観察の森 自然観察センター

〒982-0251 仙台市太白区茂庭字生出森東36-63

TEL: 022-244-6115 FAX: 022-244-6133

「仙台市公園緑地協会」URL: <https://sendai-green-association-jp/green/taihakusan/>